

放射線看護専門コース  
放射線看護専門看護師教育課程

鹿児島大学大学院保健学研究科

博士課程前期

## 目次

教育理念	1
教育目的・目標	1
カリキュラムの枠組みと概念	2
期待される能力	3
科目の進行	3
放射線看護の専門性	4
科目の概要	5
実習の概要	7
看護専門コースの履修内規	10

## 放射線看護専門コース 放射線看護専門看護師教育課程

放射線看護専門コース（放射線看護専門看護師教育課程）の理念

本コースは、日本看護系大学協議会が定める専門看護師教育課程審査基準に応じた科目を大学院博士課程前期に増設するものである。そして、放射線医療における専門的知識と実践力を基盤として、患者とその家族に対して、個別的、全人的な看護が実践できる能力の人材を養成する。特に放射線医療の看護において、科学性と自立性・社会性を身に付けた高度専門職業人を育成する。さらに科学的独創性と国際性の豊かな看護実践能力を有し、本分野における社会貢献の中核をなす人材を育成することを目指している。

（目的）

1. 放射線医療における患者とその家族に対して、診断・治療が安全・確実に、かつ継続して行えるための個別的、全人的な看護が実践できる能力を育成する。
2. 放射線医療における看護の専門的知識と実践力を基盤として、看護スタッフの指導・相談を行う能力、及び関連する他職種と協働する能力を育成する。
3. 放射線医療における看護についての臨床実践能力を自律的に向上する能力を育成する。

（目標）

（1）放射線医療における診断・治療方法についての障害やその予防、社会的資源の活用を含めた適切な情報提供により、対象の意思決定を支援することができる。（意思決定）

（2）放射線医療における診断・治療方法について、その効果と障害について患者とその家族の看護問題をアセスメントし、予防と症状緩和ができるように効果的なマネジメントを推進することができる。（アセスメントとマネジメント）

（3）患者の病態とその個々人の特性を考慮して主体的に診断・治療に取り組み、コンサルテーション能力を活かして支援することができる。（コンサルテーション）

（4）他の医療職者と協働する中で調整役としてのリーダーシップを発揮し、互いに連携をとりながら、患者の円滑な治療および在宅療養促進のための看護を展開できる。

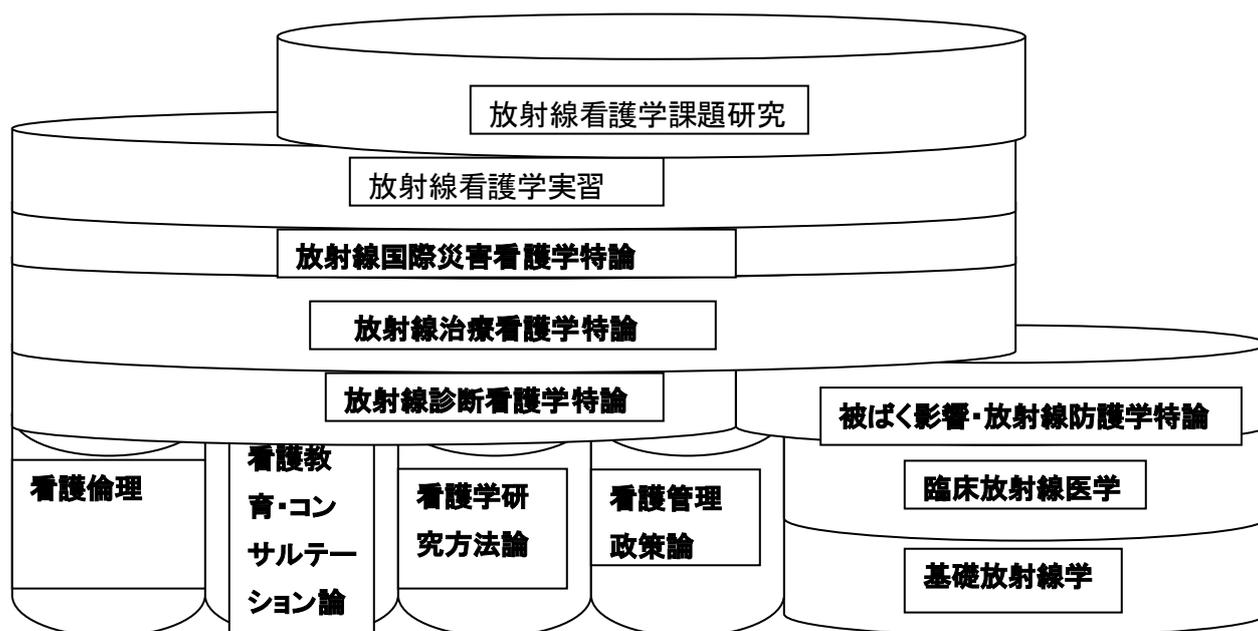
（調整）

（5）放射線看護専門職として社会ニーズを自覚し、看護ケア提供の管理に責任をもち、放射線防護や緊急被ばく医療体制の取り組みをも主体的に職務が遂行できるとともに、医療スタッフに対する相談や指導、教育についての役割を担うことができる。（教育）

（6）放射線医療において質の高い看護を提供できるように、自律性を持ち、最新の知識・技術の修得のために学習し、研究的に取り組み、研鑽できる。（研究）

（7）患者の生命・尊厳・権利を尊重し、個人に関する情報を守るように努め、放射線医療の専門的知識と技術を根拠として、科学的判断と倫理的判断のもとに擁護者として他の医療職者に改善を働きかけられる。（倫理）

## カリキュラムの枠組みと概念図



放射線看護専門コースのカリキュラム (26単位)

科目名	放射線専門看護師コース	共通
専門基礎科目	基礎放射線学:前期2単位	看護教育・コンサルテーション論:前期2単位 看護学研究方法論:前期2単位 看護管理・政策論:後期2単位 看護倫理:前期2単位
	臨床放射線医学:前期2単位 被ばく影響・放射線防護学:前期2単位	
専門科目	放射線診断看護学特論:後期2単位	
	放射線治療看護学特論:後期2単位	
	放射線国際災害看護学特論:後期2単位	
	放射線看護学実習:2年次前期6単位 放射線看護学課題研究:2年次後期4単位	

### (放射線看護専門看護師に期待される能力)

放射線医療の診断・治療過程において、患者とその家族の身体、心理、社会的問題をアセスメントし、治療効果を最大限に得るため、放射線医療における原理・原則に基づき診断・治療を完遂し、有害事象を効果的に予防・緩和し、安全な放射線医療の実施を支援する専門的技術がある。

### 放射線看護専門コース科目の進行

\* 専門看護師教育課程

科目 専門科目	科目名	本学該当科目	開講 時期	* 必須 単位
専攻分野 共通科目 8単位	看護教育論 看護理論 看護管理論 看護研究 コンサルテーション論 看護倫理 (選択科目)	看護教育・コンサルテーション論 30(2単位)  看護管理・政策論 30(2単位) 看護学研究方法論 30(2単位) (看護教育・コンサルテーション論 30(2単位)) 看護倫理 30(2単位) (看護病態学特論30(2単位))	1年前期  1年後期 1年前期  1年前期 1年前期	15(1)  15(1) 15(1)  15(1)
専攻分野 専門科目 12単位		基礎放射線学 30(2単位) 臨床放射線医学 30(2単位) 被ばく影響・放射線防護学特論 30(2単位) 放射線診断看護学特論 30(2単位) 放射線治療看護学特論 30(2単位) 放射線国際災害看護学 30(2単位)	1年前期 1年前期 1年前期 1年後期 1年後期 1年後期	
実習科目 10単位	実習科目	放射線看護学実習 I・II 放射線看護学課題研究	2年前期 2年後期	180(6) 120(4)
合計		30単位		30

### 本学カリキュラムにおける放射線専門看護師養成像と他の専門看護師との違い

項目	放射線専門看護師	他との専門看護師との違い
意思決定	放射線医療における診断・治療方法の障害やその予防、社会的資源の活用を含めた適切な情報提供により、対象の意思決定を支援することができる。	放射線診断、核医学診療に関わる知識、および放射線診療や放射線の影響の知識を熟知し、患者への説明責任を果たし、意思決定を支える。
アセスメントとマネジメント	放射線医療における診断・治療方法について、その効果と障害について患者とその家族の看護問題をアセスメントし、予防と症状緩和ができるように効果的なマネジメントを推進することができる。	放射線傷害の特徴、影響の分類を知り、皮膚・造血組織・消化管・生殖器・眼の傷害を熟知した上で、その軽減や予防に努めるケアを計画・実践することができる。計画・実践においては、患者のマネジメントもさながら、チームのリーダーとなり推進する。
コンサルテーション	患者の病態とその個々人の特性を考慮して主体的に診断・治療に取り組み、コンサルテーション能力を活かして支援することができる。	放射線診断と治療、および核医学診療に関わる知識から、患者の放射線防護の原則に則り、患者を支える。
調整	他の医療職者と協働する中で調整役としてのリーダーシップを発揮し、互いに連携をとりながら、患者の円滑な治療および在宅療養促進のための看護を展開できる。	チームで協働し、前述した基礎知識を活かし、調整役として、他職種とも連携をし、患者の円滑な治療および看護を展開する。
教育	放射線看護専門職として社会ニーズを自覚し、看護ケア提供の管理に責任をもち、放射線防護に主体的な職務が遂行できるとともに、医療スタッフに対する相談や指導、教育についての役割を担うことができる。	放射線診断と治療、および核医学診療の際の看護職自身の防護の方策を実行し、指導できる。また、職業上放射線被ばくの可能性のある人々への健康相談、教育にあたり、健康管理ができる。
研究	放射線医療において質の高い看護を提供できるように、自律性を持ち、最新の知識・技術の修得の為に学習し、研究的に取り組み、研鑽できる。	放射線診断と治療、および核医学診療の際の患者および看護職の防護方策の開発に関わる研究に取り組むことができる。
倫理	患者の生命・尊厳・権利を尊重し、個人情報を守るように努め、放射線医療の専門的知識と技術を根拠として、科学的判断と倫理的判断のもとに擁護者として他の医療職者に改善を働きかけられる。	専門看護師として、放射線医療の専門的知識と技術を活かし、自律尊重、善行、無危害、正義に則り、誠実、忠誠に努め、ケアにあたることができる。

## 科目の概要

授業科目名	講義等の内容
基礎放射線学	(概要) 放射線看護に必要な放射線物理学および放射線生物学の基礎を学習する。
	(講師：小西恵美子) 放射線の種類、性質、線量概念、物質との相互作用を理解することから、放射線と健康影響の関係の基礎について患者に平易に説明できる能力の修得を目指している。
	(福徳康雄准教授) 細胞の構造と機能、および外的ストレスに対する細胞の応答、放射線の生物影響の機構について教授する。また、実際に線量測定を行い、放射線の線量測定の原理の理解を深める。
臨床放射線医学	(中別府良昭准教授) 放射線医学は画像診断学、I V R, 核医学および放射線治療学から成り立っており、画像診断学には、単純X線撮影、種々の造影X線検査、超音波検査、C T, M R I、血管造影が含まれる。これらの画像診断法の基本的な原理や適応疾患などについて教授する。
被ばく影響・放射線防護学特論	(概要) 放射線被ばくによる急性放射線障害、晩発性放射線障害（後障害）について概説する。放射線防護の専門知識を学習することで、放射線診療・治療の目的と効果を理解し、放射線管理や病院管理システムに対する提言ができる能力の修得を目指している。
	(講師：小西恵美子) 急性放射線障害、晩発性放射線障害の発症メカニズム、各臓器における特徴的徴候、診断・治療法、外部被ばく、内部被ばくの違いと影響、胎児に対する影響、遺伝的影響について系統的理解を深める。
	(松成裕子教授) 放射線の人体に及ぼす影響、患者や医療従事者の放射線防護法を学び、放射線防護のために環境を整備するための支援と管理ができる能力の修得を目指している。
放射線診断看護学特論	(概要) 医療における放射線の利用における専門的な知識について学ぶ。また、放射線診療、特にI V Rについての目的と効果を理解し、放射線についての正しい知識と看護ケアに必要なアセスメント技術、マネジメント技術を習得できるように教授する。さらに放射線医学の最新知見、新しい技術とその臨床応用の目的と効果についての理解を深める。

	<p>(講師：小西恵美子)</p> <p>放射線診療における放射線の人体に及ぼす影響を学び、急性放射線障害、放射線後障害についての理解を深め、生じうる障害を予測するためのアセスメント技術が修得できるように教授する。</p>
	<p>(松成裕子教授)</p> <p>放射線診療の患者に生じる障害を予測し、マネジメント技術を習得し、放射線防護のために環境を整備するための支援と管理ができる能力の修得を目指している。</p>
放射線治療看護学特論	<p>(概要)</p> <p>医療における放射線の利用における専門的な知識について学び、放射線診療についての目的と効果を理解し、放射線についての正しい知識と看護ケアに必要なアセスメント技術、マネジメント技術が修得できるように教授する。</p>
	<p>(講師：小西恵美子)</p> <p>放射線治療における放射線の人体に及ぼす影響を学び、急性放射線障害、放射線後障害についての理解を深める。</p>
	<p>(松成裕子教授)</p> <p>放射線治療中の患者に生じる障害を予測し、マネジメント技術を能力を高める。さらに放射線治療中のセルフケアアセスメントを学び、障害予防と症状緩和ケアに関するセルフケアに向けた指導技術の修得を目指している。</p>
放射線国際災害看護学特論	<p>(概要)</p> <p>緊急被ばく医療の基礎から、これまでの国内外の状況と課題さらには緊急被ばく医療に関わる国内外の機関の活動報告について、実例をあげながら概説し、看護の在り方について考える。</p>
	<p>(八代利香教授)</p> <p>緊急被ばく医療に関わる国内外の各機関の活動や被ばく医療チームにおける実際の活動について学び、看護師の役割について討議する。☝災害ストレス反応と原子力災害の特殊性、放射線医療におけるメンタルヘルス対策について概説する。</p>
	<p>(松成裕子教授)</p> <p>被ばく医療の基礎を理解するために必要な放射線の人体影響、放射線の単位、汚染と被ばくの区別、汚染拡大防止措置、個人防護装備、などについて講義する。また、福島原発事故から外部被ばくに対する処置・体制などについても概説する。</p>
放射線看護学実習	<p>(松成裕子教授)</p> <p>放射線看護学について、演習・実習を通して実践的に学習する。臨床実習では事例を通して患者の抱える問題や連携などの問題点を浮き彫りにし、問</p>

	題解決の方策に取り組み、医療提供システムにおける相談、調整、教育、研究、倫理的調整のできる能力を養うことを目指している。
放射線看護学課題研究	(松成裕子教授) 放射線看護学における実践的実態的研究課題を見出し、研究的にアプローチすることによって、得られた成果を事例レポートや実習報告としてまとめる。研究のプロセスに準じて、演習・実習を通し、実践した経過をまとめる。

## 実習の概要

### I. 実習目的

放射線看護学について、実習を通して実践的に学習する。

対象看護の実習では事例を通して患者の抱える問題の実態を知り、専門職種間の連携などの問題点を浮き彫りにし、問題解決の方策に取り組む。

専門性の実習では、専門看護師の指導を受けながら専門看護師に求められる、卓越した実践力、専門職間の連携調整、教育・相談、倫理問題の調整、研究に関わる能力を修得する。

### II. 実習目標

1. 放射線診断・治療の特殊性を踏まえて、対象への的確なアセスメント能力を実践することができる。
2. 医療チームカンファレンスや指導・相談に関わり、対象の問題解決を図れるよう調整できる。
3. 計画の実施では効果的なマネジメント、コンサルテーションによって患者家族の支援ができる。
4. 計画がどこまで達成されているかを分析・評価する。
5. 実習を振り返り、今後の自己の課題を見つけることができる。

### III. 実習内容

#### 1. 放射線看護学実習 I

複雑な健康上の諸問題を持つ事例を3例以上受け持ち、患者および家族のケアを実践する。

##### 1) 患者ケアに関する内容

- (1) 放射線医療における診断・治療方法についての障害やその予防、社会的資源の活用を含めた適切な情報提供により、対象の意思決定を支援することができる。

- (2) 放射線医療における診断・治療方法について、その効果と障害について患者とその家族の看護問題をアセスメントし、予防と症状緩和ができるように効果的なマネジメントを推進することができる。
- (3) 患者の病態とその個々人の特性を考慮して主体的に診断・治療に取り組み、コンサルテーション能力を活かして支援することができる。
- (4) 他の医療職者と協働する中で調整役としてのリーダーシップを発揮し、互いに連携をとりながら、患者の円滑な治療および在宅療養促進のための看護を展開できる。
- (5) 放射線看護の専門職として社会ニーズを自覚し、看護ケア提供の管理に責任をもち、放射線防護に主体的な職務が遂行できるとともに、医療スタッフに対する相談や指導、教育についての役割を担うことができる。

## 2) その他に関すること

- (1) 放射線医療において質の高い看護を提供できるように、自律性を持ち、最新の知識・技術の修得のために学習し、研究的に取り組み、研鑽できる。
- (2) 患者の生命・尊厳・権利を尊重し、個人に関する情報を守るように努め、放射線医療の専門的知識と技術を根拠として、科学的判断と倫理的判断のもとに擁護者として他の医療職者に改善を働きかけられる。

## 2. 放射線看護学実習Ⅱ

専門看護師の勤務する施設において、上記内容について実践する。

#### IV. 実習方法

1. 対象学生 大学院博士前期課程 放射線看護専門コース
2. 実習時期・単位および実習期間・時間 2年次前期 6単位、実習期間：平成25年4月～10月

年次	前期		後期	
	4月5月6月	7月8月9月	10月11月12月	1月2月3月
1年次			実習計画	実習倫理審査申請
2年次	実習Ⅰ 1週間 専門性の実習	実習Ⅱ 3週間 対象看護実習	実習のまとめ 課題研究	修了審査試験
	実習Ⅲ 1週間 地域放射線看護実習	実習Ⅳ 1週間 看護統合実習		

3. 実習の施設および病棟

実習名	実習施設および病棟
放射線看護学実習Ⅰ	長崎大学病院 専門看護師もしくは専門看護師の資格取得を目指している看護師が勤務する病棟
放射線看護学実習Ⅱ	長崎大学病院 13階東、11階東、10階東、7階西、RI病棟、外来放射線科
放射線看護学実習Ⅲ	福島県立医科大学 放射線医学健康管理センター
放射線看護学実習Ⅳ	鹿児島大学病院 外来放射線診療科 7階東病棟 歯科病棟 看護部

## 看護専門コースの履修内規

放射線看護専門コースについて

実践的な専門看護職者としては、放射線医療における専門的知識と実践力を基盤とし、患者とその家族に対して、個別的、全人的な看護が実践できる能力を有する人材を養成します。特に、放射線医療の看護において、科学性と自立性・社会性を身に付けた高度専門職業人を育成します。さらに、科学的独創性と国際性豊かな看護実践能力を有し、本コースにおける社会貢献の中核をなす人材を育成することを目指しています。主な研究テーマは次のとおりです。

- ① 放射線治療における有害反応に対する看護ケアの研究
- ② 緊急被ばく医療体制の構築に関する研究

放射線看護専門コースの学生

- 1) 論文テーマ：福島原発事故後の健康不安に関する調査研究
- 2) 履修例

区分	授業科目	1年次		2年次		計
		前期	後期	前期	後期	
保健学専攻共通科目	チーム医療特論	2				2
指定専門科目	基礎放射線学	2				2 2
	臨床放射線医学	2				
	被ばく影響・放射線防護学特論	2				
	放射線診断看護学特論		2			
	放射線治療看護学特論		2			
	放射線国際災害看護学特論		2			
	放射線看護学実習			6	(通年)	
放射線看護学課題研究			4	(通年)		
選択科目	看護学研究方法論	2				8
	看護教育・コンサルテーション論	2				
	看護管理・政策論		2			
	看護倫理	2				
計		1 4	8	1 0		3 2

### 3) 目的

放射線看護専門コースでは、高度専門職業人の育成を目指します。日本看護系大学協議会が定める専門看護師教育課程審査基準を満たす科目編成とし、将来専門看護師の分野特定、申請予定しています。専門看護師には、卓越した専門的能力、スタッフナースへの相

談者、教育者、研究者、保健医療福祉ニーズのケアの調整者、倫理的課題への調整者としての能力が求められます。特に、放射線医療の看護における高い専門性を身に付け、総合的な判断力と組織的な問題解決能力を持って国際的に活躍できる人材を育成することを目指しています。